

事前質問に対するご回答

株主の皆様より事前にいただいたご質問の中から、ご関心の高い事項について回答させていただきます。

質問 今後どのようにして株価を向上させていくのか。また、株主への還元についてどう考えているのか。

回答 中期経営計画に定める諸施策を着実に実行することで、企業価値の向上、ひいては株式市場からの評価につなげ、株主の皆様のご期待にお応えしてまいりたいと考えております。

また、当社は、中期経営計画において、自己資本に対してどれだけの利益を生み出したのかをあらわす「ROE」を、重視する経営指標の一つとしております。当社の場合、この指標が同業他社と比べて低くなっておりますので、まずは稼ぐ力の強化を図ることなどにより、改善に努めてまいります。

株主様への還元のうち、配当につきましては、まず、2024年3月期の配当を、1株当たり27円50銭に、さらに、来年2025年3月期の配当については、2円50銭増の30円とする予定です。

株価の向上および株主還元につきましては、株主様のご期待にお応えできるよう、取り組んでまいりますので、何卒ご理解の程お願い申し上げます。

質問 5月30日に発表した500億円の資金調達において、転換社債型新株予約権付社債（CB）を選択したのはなぜか。また、なぜこの時期に発行したのか。

回答 当社は、今期からの3カ年を「成長基盤構築・収益力強化期」と位置付け、将来の成長に向けた投資を行ってまいります。それら成長投資と財務健全性の両立、並びに調達手段の多様化の観点から、ユーロ円建のCBを選択いたしました。

発行のタイミングにつきましては、足元では金利が上昇しており、この先を見通しても、さらに上昇することが見込まれております。こうした見通しや今後の不透明な市場環境等を勘案し、より早期に長期性資金を低コストで確保し、当社グループの企業価値の最大化に向けた積極的な成長投資を実現することを企図し、この時期といたしました。

質問 蒲郡線および広見線の存続に関する見通しと活性化策は。

回答 西尾・蒲郡線（西尾～蒲郡間）および広見線（新可児～御嵩間）は、ご利用者が極めて少なく、大量輸送という鉄道特性が発揮できないところに根本的な問題があると認識しております。

現状のまま路線を存続させていくことは大変厳しい状況であることを沿線自治体や関係行政機関にご理解頂きながら、沿線自治体と密接に連携し、路線の収支改善に取り組むとともに、今後の路線のあり方等について引き続き協議を続けているところです。

また、当該路線の魅力向上を図るため、復刻塗装を施した車両の運行や、企画乗車券の発売等による利用促進を図っております。今後も地域と一体となり、沿線活性化策にも積極的に取り組んでまいります。

以上